

チェックテスト 解答

4章 トピック

1 ロボットリハビリテーション (p.514)

①

検者の違いによる問題は生じにくく、客観的で信頼性の高い評価となる。

2 認知症予防 (p.516)

①

DASC-21では21項目を1~4点で評価し満点は84点となる。このうち、31点以上が認知症の疑いがある。

②

記憶、命名、注意機能、視空間認知、概念的思考、見当識など

3 生活行為向上マネジメント (MTDLP)

①

医療・福祉・介護予防サービス・生活支援サービスなどを受けるすべての本人・家族が希望する生活行為を実現するために書式化し、作業療法士の包括的な思考過程を視覚化することによって、その目的を共有しやすく日本作業療法士協会によって開発されたプログラムである。実践課程は従来の作業療法の流れと同じであるが、見える化されたシートを用いて家族や他職種と目標やプログラムを共有するところが特徴といえる。

②

面接（本人・家族への目標の聞き取り）

4 ICDとDSM (p.523)

①

失調型（人格）障害，妄想性障害，短期精神病的障害，統合失調症様障害，統合失調症

②

6 カ月

③

双極性障害Ⅱ型

5 作業療法士と関係法規 (p.525)

①

名簿登録，免許交付，欠格事由，国家試験，業務規定，守秘義務，名称使用制限，罰則規定などが定められている。

②

介護保険法，障害者総合支援法，診療報酬など

6 評価と統計 (p.527)

①

計数尺度は，名義尺度と順序尺度に分類される。名義尺度は分類を表す，数値の大小に意味をなさないといった性質をもつ。使用例としては，性別，疾患名，血液型，職種名などが挙げられる。

順序尺度は順序や順位を表す，数値の間隔は等しいとはかぎらないといった性質をもつ。使用例としては，MMT，STEF，FIM，BRS，MMSE，SDS，BI，HDS-Rなどが挙げられる。

②

計量尺度は，間隔尺度と比例尺度に分類される。間隔尺度は任意の基準をもつ，数値の間隔が等しいといった性質を有する。使用例としては，温度，知能指数，発達指数などが挙げられる。

比例尺度は，絶対の基準をもつ，数値の間隔が等しいといった性質をもつ，使用例としては，時間，距離，重量，血圧，回数，脈拍，ROMなどが挙げられる。

③

測定結果で得られる数値には必ず誤差が発生す

る。その誤差には、何らかの原因で発生する偶然誤差と何らかのバイアスによって生じる系統誤差の2つが挙げられる。

④

仮説検定を行う際の仮説は、データの差が偶然に起きたものとする帰無仮説とデータの差が偶然ではないとする対立仮説の2つが挙げられる。

⑤

対象者個人を評価する場合、作業療法プログラムやゴール設定、経時的变化を把握することが目的となる。対象者の生活へのアプローチのためにその生活歴や人生そのものを考慮した評価が必要となる。そのため、信頼性・妥当性があることはもちろんのこと、治療室だけでなくベッドサイドなどでも行える簡便かつ安価で侵襲性が低い実用性のある評価方法を選択することが望まれる。

⑥

パラメトリック検定は平均値を比較に用いる検定であり、間隔尺度や比例尺度であること、データが正規分布していること、データ数が25以上であることなどが使用条件となる。ノンパラメトリック検定は、パラメトリック検定を用いることができない場合に中央値などを比較に用いる検定である。